

1. 調査報告概要表

作成日 2009年5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100561
法人名	有限会社グループホームひらかわ
事業所名	グループホーム ひらかわ
所在地	群馬県高崎市中里見町597-9 (電 話) 027-360-8050

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(21 年 3 月 31 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人, 非常勤7人, 常勤換算 6.18 人	

(2)建物概要

建物構造	平屋 木造 造り
	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 500 円	
	夕食 300 円	おやつ 50 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(3 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低 66 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ふるしま医院(内科)・ かばさわ歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は、梅林に囲まれており、居ながらにして四季折々の景色を楽しむことができる。管理者と職員は「ゆったり・のんびり」をモットーに、利用者一人ひとりのペースや思いを大切にしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。本人・家族の相談等には、速やかに対応している。栄養バランスのとれた美味しい食事で食欲増進に努め、かかりつけ医と連携を図りながら利用者の健康管理を行っている。清潔に整えられた室内は、採光も十分に開放感があり、利用者と職員がゆったりと共に過ごしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念については、見直しはされておらず、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になっていない。現状に即した介護計画の見直しについては、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、3ヶ月に1度は現状に即した介護計画の見直しを行っており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者と職員3名で作成しており、全職員では取り組んでいない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催しており、ホームから運営状況報告や評価の説明・報告等を行っている。出席者からの意見や要望を受け、話し合いを行っており、そこでの意見等はサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、利用者の身体状況や生活の様子等を家族に報告している。家族等の来訪時には、何でも話せる環境づくりに留意し、意見や要望等を聞くように努めている。家族の相談等には速やかな対応を心掛けている。玄関に意見箱を設置している。出された意見・要望等については、話し合い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人達と散歩時に挨拶や話をしたり、野菜を頂くこともある。ホームで開催する夏祭りやクリスマス会、救命救急講習会には、近隣の人達に声をかけ参加してもらっている。地域の行事(どんど焼き・夏祭り等)や道路清掃に参加したり、ボランティアや実習生の受け入れ等も行っており、地域住民との交流が図られている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。	○	これまでの理念を見直し、く地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく>地域密着型サービスの役割を考えながら、職員全員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげていってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、朝の申し送り時や機会あるごとに理念を共に意識しながら話し合い、ケアの方向性を確認している。日々の生活の中で、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達と散歩時に挨拶や話をしたり、野菜を頂くこともある。ホームで開催する夏祭りやクリスマス会、救命救急講習会には、近隣の人達に声をかけ参加してもらっている。地域の行事(どんど焼き・夏祭り等) や道路清掃に参加し、ボランティアや実習生の受け入れ等も行っており、地域住民との交流が図られている。		
ok					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、職員会議で話し合い改善に向け取り組んでいるが、今回の自己評価は管理者と職員3名で作成しており、全職員では取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアのふり返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでいてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しており、ホームから状況報告や評価の説明・報告等を行っている。出席者からの意見や要望を受け話し合いを行い、そこでの意見等はサービス向上に活かしている。会議メンバーに「ひらかわ通信」を配布している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市の担当者に電話で相談等を行っている。月1回、市の介護相談員の訪問を受け入れており、利用者と歌を歌ったり、散歩や食事等しながら、思いや意向等を聴いてもらい、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の身体状況や生活の様子等を家族等に報告している。家族等の来訪時には生活状況や今後の方針等も話すようにしている。また、電話で報告することもある。4ヶ月に1回「ひらかわ通信」を発行し、家族等に配布している。金銭管理の報告も定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には、何でも話せる環境づくりに留意し、意見・要望等聞くように努めている。家族等の相談等には速やかな対応を心掛けており、管理者が後で電話をするようにしている。玄関に意見箱を設置している。出された意見等については話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合には、約2ヶ月位、管理者・先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、引き継ぎがスムーズにできるよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護基礎研修、認知症アカデミー講習、認知症サポーター養成講座、AED救命救急講習等を職員が交代で受講している。研修参加者は報告書を作成し、ミーティング時に研修発表を行い全職員に周知させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の西部ブロック研修委員会に所属している。レベルアップ交換研修に参加している。昨年の大会には利用者と職員が参加し、「ひらかわ音頭」を発表した。数ヶ所のホームと積極的に交流を図っており、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問し、本人・家族等の話を親身になって聴くよう努めている。本人・家族等に見学してもらい共に過ごしながら、安心してもらえるような対応をしている。入居後も、本人が孤立しないよう、寄り添いながら思いの聴き取りに努めている。居室に馴染みのものを持ち込んでもらう等、家族の協力を得ながら徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、おやつや昼食の時間に一緒に会話を楽しんでおり、昔の体験談の中から調理の方法等教わる事も多い。利用者から感謝の言葉をもらうこともある。ゆったりと共に過ごせるよう、支えあう関係づくりに留意している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦、生活習慣を把握し、日常の会話や表情、行動の中から本人の思いや意向を把握できるよう努めている。家族等からも意見を聴くようにしており、その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には、日頃のかかわりの中で思いや意向を聴き、介護計画に反映させるよう努めている。月1回の会議や毎朝、申し送り後のミーティングで職員が話し合い、意見や気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。月1回モニタリングを行い、職員間で話し合い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、受診・通院支援等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等に説明し、意向の確認を行い、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。月2回、かかりつけ医が往診しており、利用者の病状管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の「できること・できないこと」を明確にし、入居時に本人・家族等に説明している。かかりつけ医、家族等と連携をとりながら、状況の変化の度に、本人・家族等の意向を受けとめ可能な限り支援している。事業所としての重度化や終末期に向けた方針を定め、文章化はされていない。	○	事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応の方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人・家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々家族等の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針の統一を図ってほしい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を損ねるような言葉かけや対応等に注意を払っている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。散歩や体操、食事や飲茶、起床時間等、その日の体調や思いに配慮しながら柔軟な対応を心掛けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、お盆拭き、野菜の皮むき等職員と一緒にやっている。個々の好みや苦手なものを把握し、メニュー変更を行ったり、利用者の希望を献立に取り入れている。手作りおやつや飲み物の選択、調理法等を工夫し、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回、プライバシーに配慮しながら、体調や希望に沿った入浴支援を行っている。リフト使用の入浴にも対応している。入浴剤やバラ風呂等で季節を感じてもらい、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の生活歴や力量に応じて、洗濯物(干し・たたみ)・モップかけ・テーブル拭き・洗面所の清掃等の役割を持ち、日常的に継続できるよう支援している。ラジオ体操・カラオケ・ぬり絵・テレビ鑑賞・誕生会・クリスマス会・ボランティアの慰問等で楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩、買物、観音山や榛名・吾妻方面へ2時間位のドライブ、季節の花見等に出かけており、日常的に外出支援が行われている。年1回、家族との親睦会(外食ツアー)を開催しており、家族等やボランティアが多数参加し交流を深めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の連携や見守りで安全面に配慮しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。鍵をかける場合には、家族等に説明し、理解を得るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導の下で避難誘導訓練や消火訓練を実施している。毎月、ホーム独自で自主防火訓練を実施している。災害時の連絡網を作成している。地域災害時協力者を依頼し、協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な食材を調達し、食欲を促す工夫をしながら栄養バランスのとれた献立を作成している。個人記録に食事や水分等の摂取量を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。医師の診断等を考慮し、指示に合わせた対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にスマイルのプランターを設置し、中には鯉のぼりの飾りや美しい生け花を飾っている。室内は天井が高く、明るいリビングからは庭に咲く桜やチューリップ等の花々を見ることができる。花・写真・兜飾り等で季節感を採り入れて、家庭的な雰囲気の中で、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのものを持って来て頂くよう働きかけしている。各居室には、整理箆笥、衣装ケース、ラジカセ、家族の写真、縫いぐるみ等が持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		